



試験では縦二・五層、横一・八層の壁を押ししたり引いたりすることで負荷をかけた。約六トンの負荷がかかったところで枠から合板がはがれた。写真。建築基準

法が定める基準値五倍以上の強度が確認され、スギを外国産材と同様に使用しても十分な強度があることが証明された。

県産スギ使用の壁  
試験で強度を確認  
県森林研究所など  
親和木材工業(各務原市須衛町)と県森林研究所(美濃市曾代)は二十二日、県立森林文化アカデミー(同市曾代)で、県産スギを使ってツーバイフォー工法で作った壁の強度を調べる試験をした。

同社は、スギなど国内で消費されずに増えている直径三十センチ以上の大径木を建築用材として利用することを目指す。特に、外国産材の使用が主流のツーバイフォー工法で大径材を有効活用できるよう、研究所から支援を受け、試作した壁で強度試験ができるまでこぎ着けた。

岐阜県森林研究所ホームページ掲載期限:令和6年1月5日

この記事は中日新聞社の許可を得て使用しています。